

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570106161		
法人名	医療法人久幸会		
事業所名	りんどうの家		
所在地	秋田県秋田市手形字山崎164番地2		
自己評価作成日	平成30年9月24日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の心情を汲み取り、全スタッフそれぞれ入居者様をいたわる気持ちを持ってケアの提供をしています。秋田駅裏に立地し、駅まで徒歩10分、千秋公園まで20分と秋田市中心部にあります。気分転換に電車を眺めながら秋田駅まで散歩をしたり、リビングから正面に見える千秋公園を眺めながら、入居者様は四季を感じております。また、近年は千秋花火が開催されるようになり、3階から真正面に見る大きな花火に皆様とても感動しています。引越し当初から続けている銀行作品展は、今年7回目の開催となりました。作品作りは、入居者様の楽しみや励み、気分転換となっておりますので、今後も続けていきたいと思っています。自由で当たり前の生活が送れ、互いを思いやり、優しさのある安らぎを大切にしたいグループホームです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年11月8日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興住宅街であり、町内付き合いを重視し、町内全家庭をスタッフが直接訪問し機関紙である「りんどう便り」を届けており、ホームの様々な行事に住民が参加するきっかけにつながっている。法人4ヶ所のグループホーム共通の理念の中から、翌年に取り上げたい言葉をホーム独自の理念として抽出している。4ヶ所のグループホーム共通の理念の一つひとつの言葉の持つ意味合いを、ホームスタッフ個々の研鑽につなげるという独自の試みを実践している。家族には郵送し、入居者にはスタッフの聞き取りにより、春と秋の年2回もの満足度アンケートを実現している。毎月かさず避難訓練を実施しており、他に例を見ない実施回数の多さに驚かされる。理念は自分の「心の柱」とあるとのスタッフの言葉が印象的なホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念「いたわり」を掲げている。理念は、年度末のミーティングで全スタッフで評価と見直しを行っている。リビングに明示し、日々折に触れ浸透、実施を図っている。	法人4ヶ所のグループホーム共通の理念の中から、翌年に取り上げたい言葉をホーム独自の理念として抽出している。年度末に全スタッフ各々の1年間の実践の振り返りを基に翌年のホームの理念を決めており、あえて同じ理念を継続することもある。4ヶ所のグループホーム共通の理念の一つひとつの言葉の持つ意味合いを、ホームスタッフ個々の研鑽につなげるという独自の試みを実践している。理念は自分の「心の柱」であるとのスタッフの言葉が印象的である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事には、積極的に参加し、地域との関係を深める努力をしている。事業所便りを近隣に配布し、地域の銀行で入居者様の作品展を年1回開催している。	茶道をたしなんでいる住民が、ホームの作品展に参加したのがきっかけで、今は入居者に抹茶をたてに訪問してくれているとの微笑ましい交流事例を紹介していただいた。新興住宅街であり、町内付き合いを重視し、町内全家庭をスタッフが直接訪問し、機関紙である「りんどう便り」を届けており、ホームの様々な行事に住民が参加するきっかけにつながっている。救急救命法や押し花作り等の作品作りにも住民が参加していることが確認できた。新興住宅地であることからあえて近隣者との交流を積極的に進めようとするホームの姿勢が伺える。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域の方へは、事業所便りでいつでも気軽に遊びに来て欲しいこと、介護や認知症についての悩みや相談などがあればいつでもアドバイスをすることなどを呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し運営状況や活動状況、ヒヤリハット体験、事故報告等を報告し構成員の方々から様々な視点でのご意見を頂き、即座に検討実行している。	町内会長が毎年変わることもあり、挨拶がてら運営推進会議の案内を直接会長の自宅へ届けるとのこと。地域包括支援センターの職員が交代で毎回参加している。県外の家族の参加は難しい現状にあり、市内の家族へは毎回案内することで、出来る限り多くの家族に参加してもらおうよう配慮している。ホームのリビングで開催しており、毎回入居者も参加している現状にある。会議記録の出席者については、第三者に構成メンバーが分かるよう名簿に参加チェックする様式を検討中とのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の包括支援センターの職員が、運営推進会議に委員として毎回参加して情報交換し、取り組みに助言や指導を頂いている。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が交代で毎回参加し、ホームの実情を詳細に把握しているため、入居希望に対する紹介等、連携を密にしている。生活保護受給者に関する情報交換事例も確認できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングでの研修資料の読み合わせや今年度より3ヶ月に1度、身体拘束適正化委員会の実施等で身体拘束による弊害を理解し、共通の認識を持って身体拘束をしないケアに取り組んでいる。建築構造上、玄関は鍵使用のエレベーターとなっており、安全上配慮されている。	法の改定により、早速法人内4ヶ所のグループホーム合同の身体拘束適正化委員会を立ち上げている。現在は各ホーム毎に委員会を機能させており、マニュアルの読み合わせや事例検討の実践が確認できた。3階建ての2階に設置されたホームであり、らせん階段とエレベーターのどちらも入居者単独の使用に危険性が伴うため、スタッフの付き添いが必要な現状にある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常においてそのような行為がないようスタッフに声掛け、注意している。また、研修に参加し学ぶ機会を作っている。研修で学んだ事は、ミーティングで全スタッフにフィードバックし情報の共有を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	担当相談員と連携を図り、必要性のある利用者様には、活用の有無を含め相談を受け支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主治医、利用者様、ご家族様、相談員、管理者等で十分な話し合いを行い、意思確認を行った上で決定している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的窓口を文書及び口頭で紹介、事業所内には、苦情・相談窓口担当氏名を提示し、投書箱を設置している。意見等があった場合は、速やかに協議し、改善に繋げている。	家族には郵送し、入居者にはスタッフの聞き取りにより、春と秋の年2回もの満足度アンケートを実施している。アンケートは、言葉がけ、居心地、健康管理、安全性、優れている点、改善点等の項目から構成され、集計分析後、結果を全家族に公表している。受診報告や健康面を家族が気にかけている傾向にあることが鑑みられる。遠方の家族からの希望で、メールで連絡を取り合っている事例も確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアカンファレンス、ミーティング以外でも日常的に意見が出され、業務改善がなされている。	朝夕の申し送りや日常業務の中で、思いついたときは随時互いに話し合える体制にある。法人内全体での異動等、スタッフ個々の家庭事情に合わせた勤務が可能となるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に自己評価し、個々の状況を把握している。又、それと共に面接を行って向上心に繋がるアドバイスがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の推奨や経験年数、希望に応じて法人内外の研修参加を勧めている。又、法人内の安全管理や院内感染対策の勉強会は、全員必須で参加しながら知識を習得している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症GH連絡会の勉強会に参加して情報交換や親睦が図れるよう努めている。		
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と面談を交わし、心身の状況や要望等を受け入れ、段階的に安心感が得られる対応を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や電話でもご家族様の心情を十分に聞き取り、受け止める等安心感が得られる対応を図っている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの知恵、培ってきた知識を日常生活のさまざまな場面において、それぞれが得意な所で参加して頂き、助けあって生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の些細な事でも互いに情報交換し共に支えあっていく事への結びつきを深めている。又、協力を頂ける範囲内で諸事の付き添いを行ってもらい、共に利用者様をサポートしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様が大切にしてきた方や場所との関係の継続が図れるよう支援している。	家族が秋田市に住んでいる関係で、秋田市に引っ越してきたという入居者が多い。毎週火曜日に病院のデイケアにホームで送迎しているが、車中、本人にとって馴染みの場所を確認できたとのこと。家族が届け物を兼ねて訪問した際に、共に居室で過ごしてもらっている。関東から長男が、決まって毎月面会に訪れるとのこと。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、話題を提供するなどして全員とのコミュニケーションの場が作られている。一人一人が大切な存在であることを認め合い支え合っている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからでもご本人、ご家族を見かけた時には、どうしていらっしゃるか声を掛けたり、心配や不安があればアドバイスしている。要望や依頼があればいつでも対応し、役立ちたいと思っている。		
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で表情や動作・会話などから思いや希望の把握に努め、その人の思いに沿いながらホームでの生活を提供している。	日常生活の中で、食べたい物を聞き取ったり、スタッフミーティングの前のおやつの時間に行きたい場所を尋ねたりしている。年2回もの満足度アンケートを実践しているが、入居者からスタッフが聞き取ることで、家族だけでなく本人の思いや暮らし方の希望、意向の把握をアンケートを活用し、その実現に努めている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	好みや嗜好に配慮し、思い出の品物や馴染みのある品物を持ってきて頂き、今までと変わらぬ本人主体の暮らしが継続できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムと毎日の体調管理には、十分気を配り、日常生活動作において有する力を発揮できるよう支援している。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは、3ヶ月に1回見直しをしておりモニタリングや担当者会議でご本人の意向の確認や要望を取り入れ現状に合った計画作成をしている。ご家族からは、面会時や電話で意向等を伺っている。	3ヶ月に一度の見直しを実施しており、担当者会議の当日に参加できないスタッフに配慮し、申し送りノートに挟んだ様式に意見やアイデアを記載する工夫をしている。入居者2名に対しスタッフ1名の担当制を採用しており、本人や家族の意向を取り入れながら、モニタリングシートを担当スタッフ中心に記入している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時、ミニカンファを行い、ケアの具体策を挙げ、見直しを行いながら介護計画の作成に役立っている。情報の共有は、申し送りと記録物で徹底されている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が希望する近隣の医院や訪問美容等を利用し生活の質の向上に努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に希望する医療機関を伺っている。又、協力医療機関の説明を行っており、かかりつけ医の他、自由に選択できるようにしている。	入居前のかかりつけ医を基本とし、受診付き添いはスタッフが行っている。ホームの主治医を法人系列の病院としている。希望する医療機関が定まっていなない場合はホームから近い医療機関を受診できるよう配慮しているとのこと。受診の1ヶ月前には、法人の車輛課に運転付の配車を予約するシステムであるが、緊急時にも対応してくれている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師への状態報告を行い、必要時は医療機関を受診をしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当相談員を介して積極的に情報交換や相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	様々な専門分野との終末期介護におけるチームアプローチがスムーズに行えるよう、共通理解の為に話し合いを重ねている。	基本的には看取りは行わない方針であり、重度化した場合や終末期のあり方について、入居契約時に説明し、同意を得ている。実用に応じ、入院等医療機関との連携を優先する体制であることが確認できた。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し、普通救急救命講習会を実施できるよう調整中である。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を作成し、月1回火災や風水害、地震を想定した避難訓練を実施すると共に非常災害用の食品備蓄をし備えている。また年2回避難をする際の協力体制を手形ハウスと確認している。	1階にある宿泊型生活訓練施設(通所型生活訓練施設)と共に、毎月かかさず避難訓練を実施しており、他に例を見ない実施回数多さに驚かされる。毎月実施しているものの入居者の反応からはいつも新鮮さを感じるとのこと。ホームが2階に位置しており、非常口から螺旋階段を使用する関係からか、当初より避難訓練は毎月実施しているとのこと。	
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの個別性を尊重し、尊厳を大切にしている。法人内に待遇委員会があり、法人全体の接遇のレベルアップに取り組んでいる。又、事業所独自に年間の接遇目標を立案し、毎月のミーティングで目標を確認している。	年間計画表に基づき、3ヶ月に1回の接遇委員会を開催し情報交換をし、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保について検討している。スタッフ同士の連絡の際は入居者名をイニシャルで表現することで、プライバシーを確保する工夫を取り入れている。トイレ誘導等は小さな声で対応していることが確認できた。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	暮らしの中で希望が取り入れられるよう選択する機会を設けて自己決定できるよう支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が希望する、思い通りの生活空間で日々をすごせるよう支援している。健康状態の把握や一人一人の思いに寄り添い、ご本人が望む生活サポートをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服選びや身だしなみについては、さりげない手助けをしている。希望に沿って理・美容院の予約をし、いつまでもきれいでありたい思いや清潔保持したい思いに沿って支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使った季節料理や行事食を利用者様と一緒に考えている。食事が楽しみのひとつとなるような働きかけをしている。	食事中は互いの会話が聞こえる気にならない音量でBGMが流れており、音源がどこからか探さないとわからない位のやさしい雰囲気をかもし出していた。普段は配食サービスを活用しているが、正月とゴールデンウィークには、入居者から聞き取り皆で献立を考え、食材を買い出し、手作りの食事を提供している。ちらし寿司、エゴ、稲庭うどん、山菜の天ぷら等々で、特にウナギは好きとのこと。当日はおやつ作りの得意な入居者の手作りフレンチトーストが非常に美味であった。スタッフも同じメニューを入居者と会話を楽しみながら一緒に食べている。当日は我々訪問者に緊張し、いつもより会話が少ないと知り、苦笑した。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を基に調理し、栄養バランスの摂れた食事を提供している。水分摂取量は、一日のトータルを出し、水分不足にならないよう配慮している。一人ひとりの既往歴を踏まえ、食事摂取カロリーにも配慮している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前のうがい、手洗いや毎食後の歯磨きは習慣化している。出来ない所のお手伝いをする事で一人ひとりが清潔保持できるよう支援している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを理解して失敗のないよう排泄誘導している。失敗した時でもプライバシーに配慮し、自尊心を傷つけないさりげない対応をしている。	比較的自立度の高い傾向にあり、排便のみチェック表を活用している現状にある。必要に応じ誘導等する場合は自尊心に配慮し、他に聞こえない配慮を徹底している。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時に、カスピ海ヨーグルトを提供し、お腹にやさしい便秘予防に努めている。更に、介護予防体操や風船バレーなど運動を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間を問わず、入浴希望や必要があった場合は応じている。入浴前は、バイタル測定をし、健康状態に合わせて湯温や時間を調整し楽しんでもらっている。	毎日入浴を実施しており、どの入居者がいつ入浴したかをスタッフが共有できるようチェック表を活用している。入りたがらない場合は時間を置くことで入ってくれるとのことで、無理強いほしないとのこと。本人の希望で毎日入浴を楽しんでいる方の存在がチェック表から確認できた。入浴は午後1:00~3:00を定めているがその日によって午前中より入ることもある。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心地よい疲労感を持つことで休息や安眠に結びつくよう一日の生活リズムや運動量の確保に努めている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服内容を記録し、目的や副作用を把握するよう努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や経験を生かし得意な事や好きな事、趣味を続けられるよう環境作りに努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って買い物や散歩の支援をしている。普段、行けない場所であれば、外出レクリエーション等要望に応えている。	4月~11月の期間、外出レクと題し、毎月実施しており、花見、天王グリーンランド、土崎伝承館等々、行く先々でホームの食卓にのぼる野菜を購入したりするのも楽しみの一つ。法人の車輛課が車の手配をしており、運転手を派遣してくれ、介助も運転手が協力してくれとても助かっているとのこと。秋田拠点センター・アルヴェやNHKまでは歩いて10分から15分とのことで、スタッフ1人に入居者2人もしくは1人で散歩がてら出かけている。	3階建ての2階部分に位置するホームへの通用口が螺旋階段とエレベーターという構造上の理由による閉鎖感を少しでも緩和するよう、今後とも日常的な外出支援を意識的に継続するよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談した上で本人が管理できる金額を持ってもらい、使っている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は、自由に出したり利用している。必要に応じてサポートしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には、季節の装飾をし季節を感じとれる工夫をしている。普通家庭と同じように台所から、食事の準備をしている匂いや音が聞こえてくる。自然光を取り入れた暖かい空間作りをしている。	窓には入居者と共に紙で手作りした秋にふさわしいコスモスとトンボが装飾され、紅葉を思わせる同じく手作りの作品が壁に飾られていた。1名の入居者が楽しそうに色紙で複数の栗を折っている様子を確認できた。気になる臭いや音は一切感じられない。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやホーム内に一人掛けの椅子を置き思い思いの時間を過せるような環境作りに努めている。新聞、雑誌は、自由に読めるようにしている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	GHでの生活が入居前の生活の延長線であるよう、できるだけ思い出の品物や馴染みのある品物を取り入れるよう工夫している。	各居室にエアコンが設置され、冷暖房に対応している。ベッドは備え付けであり、入居者個々の身体状況に合わせたベッドに交換する事例を確認できた。リネンは持ち込みにしており、洗濯はホームで対応している。孫の写真や持ち込んだテレビやラジオを楽しんでいる。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止のため、施設内はバリアフリーとし、廊下、トイレ、浴室には手すりを施し、高齢者の生活に優しい環境となっている。居室入口に、分かりやすい目印をつけたり、トイレがわかりやすいような配慮をしている。		